

令和 6 年度兵庫県強度行動障害支援者養成研修 (基礎研修)

【実践報告】

児童期及び成人期における支援の実際

1 5 : 0 0 ~ 1 6 : 1 5

| | | | | | |
|----|-----|-------|------|----|----|
| 福) | 五倫会 | 姫路暁乃里 | 課長 | 森本 | 隆義 |
| 福) | 陽気会 | おかば学園 | リーダー | 浜口 | 綾太 |

強度行動障害を示す利用者への支援

アセスメントと構造化
視覚的予告支援を活用した事例



姫路暁乃里 課長 森本 隆義

目次

1. 当施設について
2. 強度行動障害SV養成事業について
3. アセスメント
4. Aさんについて
5. 時間の構造化
6. 空間の構造化
7. 統一したチームでの支援
8. 表出の支援
9. まとめ

当施設について

施設概要



姫路暁乃里

サービス種別

| | |
|--------|-------|
| 施設入所支援 | 定員30名 |
| 生活介護 | 定員38名 |
| 短期入所 | 定員4名 |
| 日中短期入所 | 定員4名 |



強度行動障害SV養成事業について

事業の説明

目的

地域で生活している、強度行動障害を示す人たちが適切な支援を受けることにより、地域で安定した生活を送ると共に、自らの持っている力を引き出せるようになる。

そして労働などの社会貢献や地域で行われている活動への参加を達成し、社会の一員として充実した日々を送れるようになること。

目標

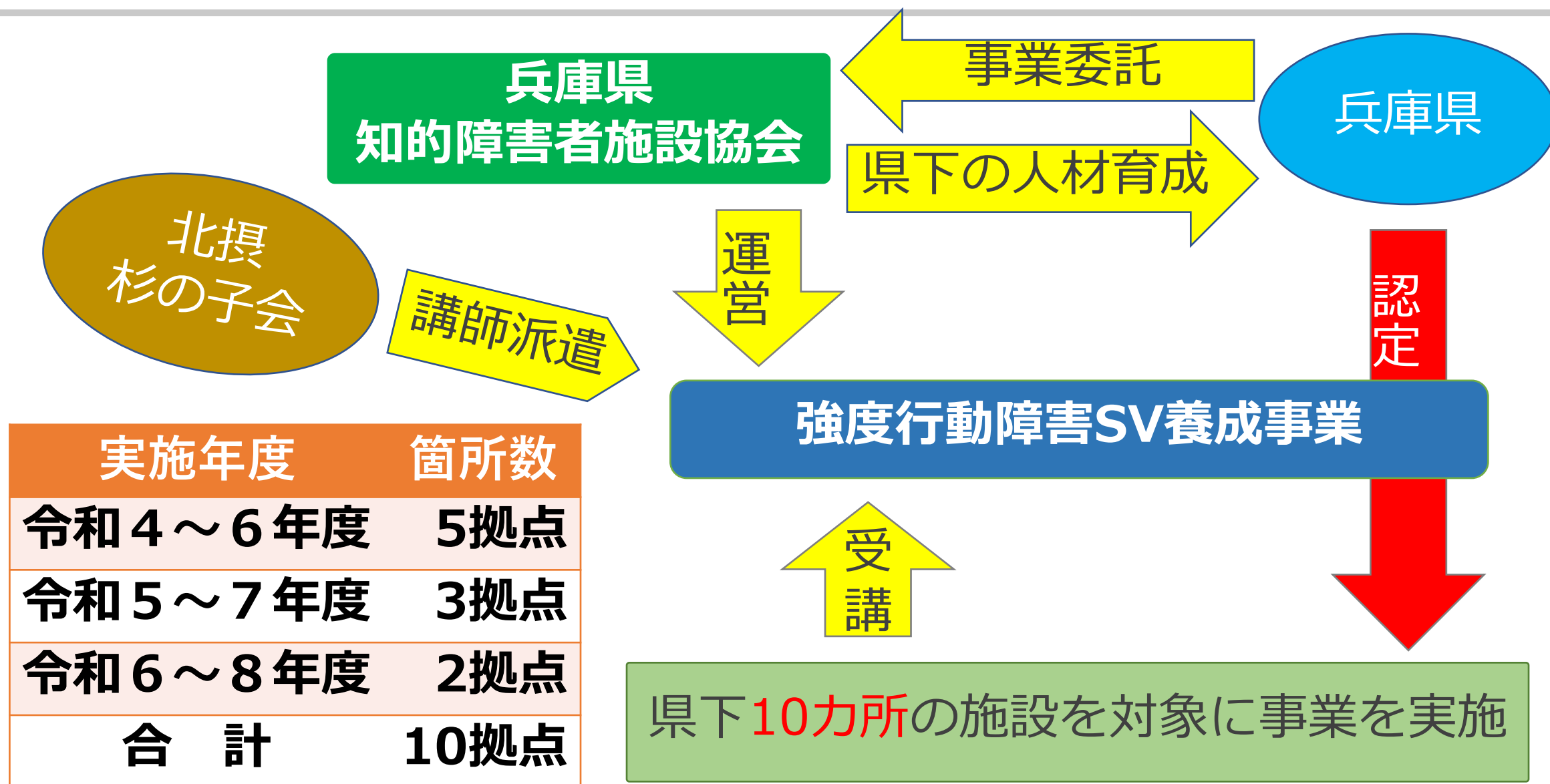
上記の目的を達成するために、支援者が障害特性を理解し、適切な支援技術を身に付けられるようにする。

そのために、地域ごとに強度行動障害支援について助言できるSVを養成して配置する。

取り組みの経過

| 令和 | 内容と成果 |
|------|--|
| 元年度 | 強度行動障害への質の高い支援者育成プログラムの構築を目指し、県外各所への見学、懇談会、その他強度行動障害の研修に参加。 ⇒強度行動障害スーパーバイザー養成講座の基礎講座プログラムの確立 |
| 2 年度 | 県下 3 法人の拠点施設を設け、令和元年度に作成したプログラム（基礎講座・実践講座）をモデル事業として実施。 ⇒基礎講座・実践講座の実施により支援力の向上、職員の意識変革、利用者の課題行動の軽減を目指す |
| 3 年度 | 参加対象を拡大し、拠点施設の法人以外からも参加を募り、実施。スーパーバイザー養成講座の実施により、プログラムを評価、県との協議の場で提案。 ⇒令和 4 年度より県としての正式な事業へ |

事業の概要



養成システム

兵庫県知的障害者施設協会

運営

強度行動障害スーパーバイザー養成講座

基礎講座

講義

行動障害と
障害特性の理解

アセスメントと
構造化のアイデア

コミュニケーションの
苦手を補う工夫

実践講座

事例検討会

実践

スーパーバイザー
指導のもと、事例
検討会での助言
の実施

講義

SVに必要な知識

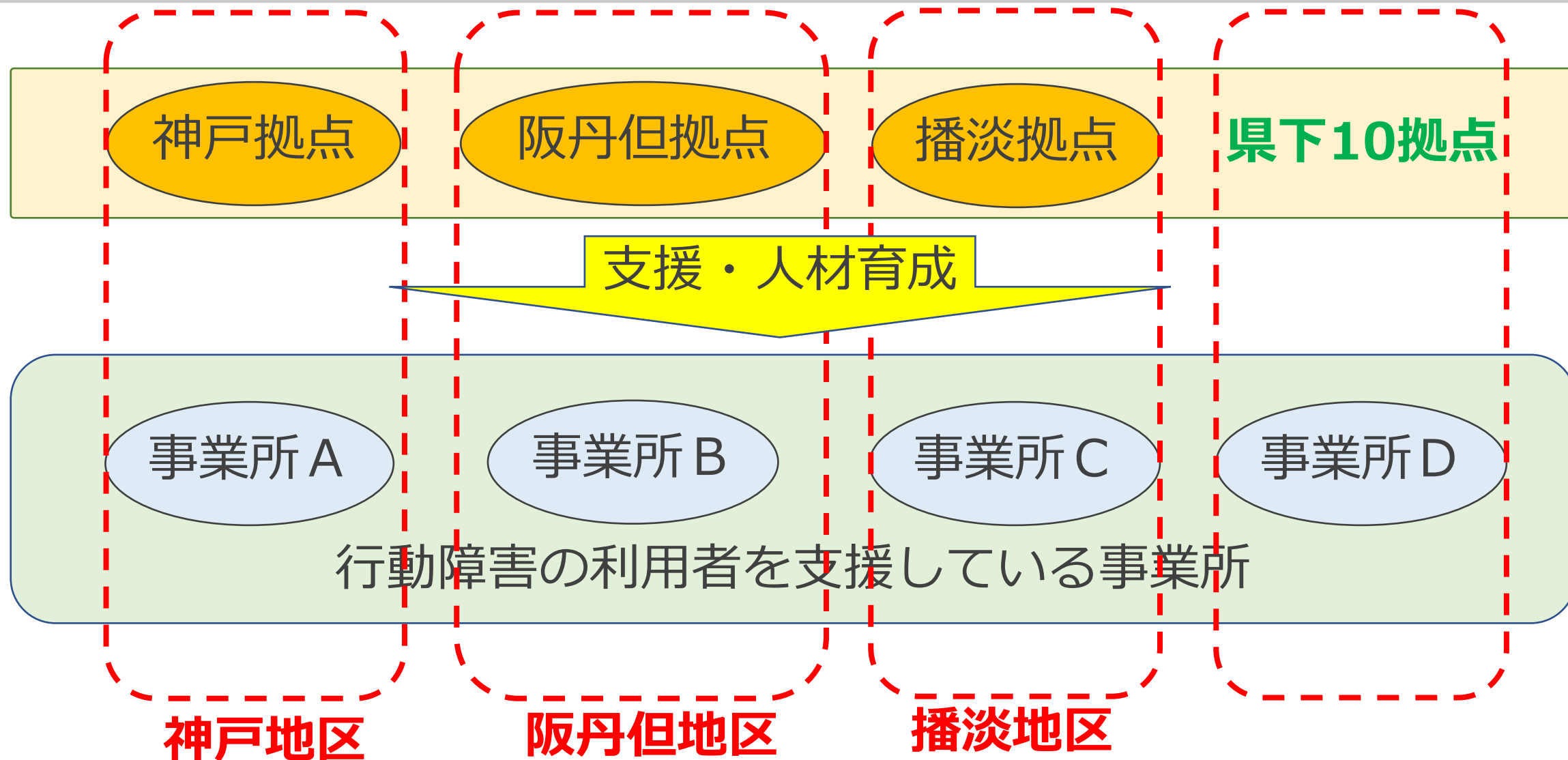
インターン認定

インターン
シップ事業

インターンとしてスー
パーバイザーに同行し、
技術を向上

SV認定

地域単位での支援システム



自閉症スペクトラムの人の行動は冰山モデルで考える

目に見える部分
(行動上の課題)

物損、他害、盗癖、盗食
昼夜逆転、水中毒、単独外出

ストレス・不安・苦痛

目に見えない部分
(背景にある課題)

対人関係を調整する態度の質的なちがい

コミュニケーションの質的なちがい

想像することのむずかしさ

感覚のちがい

注意の向け方のちがい

生まれ持った脳の使い方の違い

アセスメント

アセスメント（情報の収集と整理）

- インフォーマルなアセスメント（生活時間の調べ、行動観察や記録、家族や関係機関からの聞き取り等）
- 特に人に接する機会でのどのような反応があるか
- 物事の順序や時間をどのように捉えているか
- 空間をどのように捉えているか
- 何を見たら自分がその場所や活動に行くと理解するか



何をアセスメントするのか？

- ・得意なこと ・強みと弱み（能力のアンバランス）
- ・好きなこと、苦手なこと（何が励みになるか、こだわりを活かす）
- ・コミュニケーションレベル

⇒表現性コミュニケーション（表現）と受容性コミュニケーション（理解）の差

- ・ひとつひとつの場面や状況をどのように理解しているのか？（場所と行動をセットで覚えていないか）
- ・何がわからないで困っているのか、特に「始まり」「おわり」は？
- ・どのような刺激に敏感又は鈍麻か ・健康上の課題、合併する障害

上記の内容を正確に捉えておくと、構造化のアイデアを考えやすい

Aさんについて

Aさんプロフィール



| | |
|--------|--------------------------------------|
| 生年月日 | 昭和〇年〇月〇日（40歳代） |
| 身長 | 161.6cm |
| 体重 | 56kg～62kg （水中毒の為、1日で5kg程の増減があります） |
| 障害 | 知的障害/自閉症/ 強度行動障害 行動関連項目 18点以上 |
| 障害支援区分 | 6 |
| 療育手帳 | A |
| 家族構成 | 父、母、姉、妹3人 |

生育歴／施設入所前の様子

| | |
|--------|--|
| 0歳 | 普通分娩にて誕生（3700g） |
| 1歳半 | 視線が合わない等の様子が見られるが、1歳半検診では問題なし。 |
| 3歳 | 3歳児検診でも「問題なし」との事であったが、他の子どもと遊ぼうとしない等の行動がある。 |
| 4歳～5歳 | 私立保育園に通園 保健所からのすすめで週に1度「遊びの会」に通う。 |
| 6歳～8歳 | 地元の小学校の特別学級へ通学する 毎月1回参加していた「言葉教室」の先生の助言で転校。 |
| 9歳～13歳 | 養護学校に転校。小学校6年生の頃、自宅にて火事を起こしてしまい、両親と離れ障害児入所施設に1年間入所。 |
| 14歳 | 姫路への転居 姫路養護学校へ転校。転居後は外出の機会も増え、学校でも穏やかに過ごす。 |
| 17歳 | 姫路養護学校高等部に進学 学校内での職業訓練のグループ分け後より引きこもりがちになり、また行動面も荒れ始める。 奇声や近隣の家に入るなどの行動が表れ始め、自宅での生活が困難となり、障害者入所支援施設に入所。 |
| 27歳 | 姫路暁乃里へ入所となる。 |

服薬内容

朝食後

- ガルバマゼピン錠100mg（1錠）
- バレリン錠200mg（2錠）
- ワイパックス錠0.5mg（2錠）
- リスペリドン内用薬1mg（1包）
- ユリーフ錠4mg（1錠）
- マグミット錠330mg（1錠）

昼食後

- ガルバマゼピン錠100mg（1錠）
- バレリン錠200mg（2錠）
- ワイパックス錠0.5mg（2錠）
- リスペリドン内用薬1mg（1包）



夕食後

- ガルバマゼピン錠100mg（1錠）
- バレリン錠200mg（2錠）
- ワイパックス錠0.5mg（2錠）
- リスペリドン内用薬1mg（1包）
- ユリーフ錠4mg（1錠）
- マグミット錠330mg（1錠）
- ランソプラゾールOD錠15mg

就寝前

- ニトラゼパム錠10mg

※赤字は精神薬

副作用

眠気、流涎、口喝、頭痛、不眠、脱力感

- ・口喝による飲水が習慣化しており、入所以前より水中毒の症状があります。
- ・頭痛を訴える事や、強い眠気によるふらつきが見られます。

Aさんの楽しみや主な要求



- ドライブや外出、音楽活動が大好きである。
- 月に2度ほど両親と外出があり、本人の生活の中で1番の楽しみとなっている。
- 教育番組や音楽番組が好きであり、聴きなれた曲が流れると踊りながらリズムを取る。
- 夕食前は地域のスーパーの広告を見て、外出時に何を買おうか、何を食べようか等、気になる商品をチェックしながら情報整理をしている。
- 職員に対して外出日の確認や、食べたい物や行きたいお店などを教えてくれる。

Aさんの生活場面の特徴



衣類

服の組み合わせにパターンがある。また気に入らない物をトイレに流す、屋外に投げ捨てる等の行動もあり、衣類の選択は自身で行ってもらっている。衣類選び時ににおいを嗅いで選択する様子が見られる。



食事

基本的に嫌いな食べものは無いが、同じおかずでも、細かな違いを見つけ、自身の選びたい食事が無い際に盗食がある為、配膳は1番に行ってもらっている。また精神状態によって行動が停止して進まない事がある。



活動

休日はドライブや音楽活動に参加している。音楽活動時は自分で歌わず、流れてくる音楽を聴いている事が多い。平日は散歩に参加し、落ちているゴミや枯れ葉を拾う、自身の見えないところへ移動させる行動、また突然走り出す行動があり、職員と手を繋いで参加してもらっている。



作業

以前は緩衝材のパック詰め作業に取り組んでいたが、現在は作業自体がなくなり行っていない。作業工程が明確であると1時間程は集中して行う事ができる。



排泄

自身でトイレへ向かい、拭き取りも行える。多飲水により夜間尿失禁やトイレに間に合わない事がある。



他害行為

要望が叶わない、またうまく伝わらない時や先の予定が明確でない際に情緒が乱れ他者を押す、蹴る等の他害行為がある。



睡眠

外出の前後は気分が高揚し過ぎて眠れない、また十分に睡眠をとっていても、次の日に眠気強い様子が見られる事がある。

Aさんの課題となっている行動

- 自身の訴えや要求が聞き入れられない事が重なりと不安定になり、テレビを2階から投げ捨てる物損や、他者を押し倒す、蹴るなどの他害行為が見られる。
- 自分と他者の物の境界線が曖昧であり、盗食や他者の物を持ち歩く、自分のタンスに片付けてしまうなどの行動もある。自分にとって不必要な衣類など、トイレに流す、裏山に捨てるなどの物損がある。
- 夜間の不眠による昼夜逆転がある。
- 薬の副作用と不安から来る口喝によって水中毒がある。水中毒による嘔吐やけいれん発作を起こし、救急搬送された事もあった。
- 家族との外出を行っている際に両親と離れ、行方不明となり職員が搜索する事や警察に保護される事も数回ある。



アセスメントを開始する

- 現物、写真、イラスト、文字（平仮名、カタカナ、漢字）で、何が本人にとって理解しやすいか
- 数字、数の理解
- 色の認識
- 順序（上→下、左→右）、順番をどの程度理解できるのか
- 時計（アナログ、デジタル等）の見方について

※自閉症の方にできるだけ刺激の少ない、整った環境で実施する



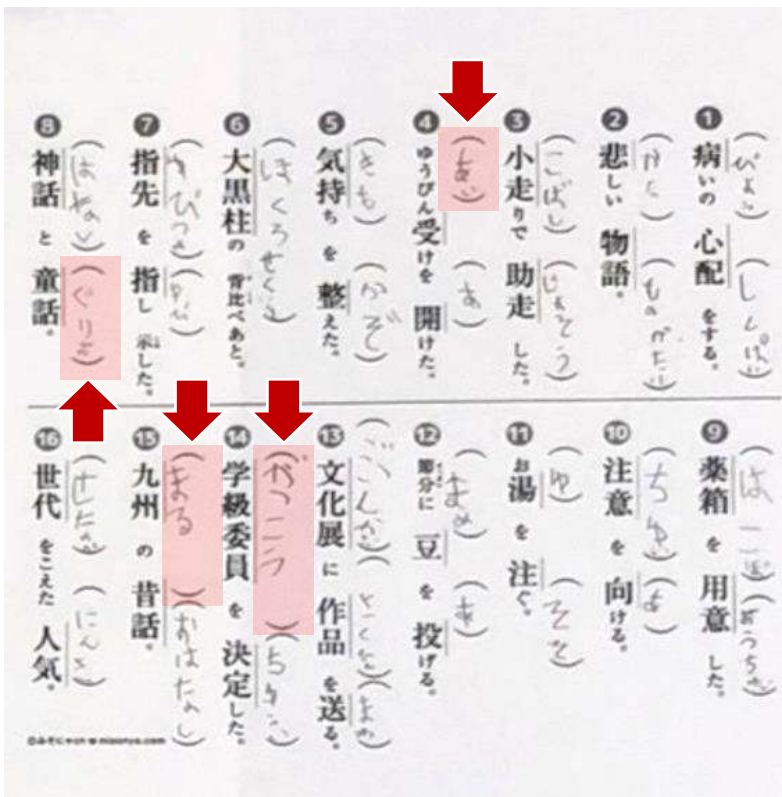
文字

内容

平仮名、カタカナ、漢字の読み書きに取り組んでもらう。

評価した事

- 漢字について、形から認識しており、似た字を知っている漢字の読み方に当てはめている。
- 部分的に見た事のある字の意味合いから関連付け、読み方を連想している物もある。
- 同じ漢字で別の意味合いを持つ漢字については、理解が難しい。



色と順番

内容

様々な色の付いた丸い紙を、別の用紙にプリントした同じ色の丸に重ねてもらう。

評価した事

- 色のマッチングは複数の色を理解している事、また重ねる際にズレが無いよう微調整している事から、細かい事に注意が向き、違いを修正する特性がある。
- 順番は左上段から右へ、またその次は中段の左から右への流れがある。

アセスメントの結果…

今までの関わり方について

- 表出コミュニケーションができて見えるように見える為、職員からの言葉の意味や意図を理解できていると考え、口頭での説明を行う事が多かった。しかし耳から入った情報を整理する事は苦手である為、それが本人の不安を引き起こしていた。
- 「月」「日」などの日付けの捉え方について、数字が理解できるからといって、口頭で説明するだけでは、関連付けや理解が難しい。



日々の様子、行動や言動、過去の情報から汲み取れる情報だけでは、支援者側の主観が入ってしまう事が多く、Aさんの認識や理解を誤って把握していた。関わりの中で不安を招く事も多かったと考えられる。

**Aさんの特性と支援者の関わりや
支援の方向性に相違があった**

Aさんの特性に合った支援は…

- 知っている文字、抽象的なイラストは認識できる。
- 時間と行動の関連についての想像が難しい、またはセットとして記憶している。
- 経験がない物の想像は難しい。
- 行動と場所や物との関連付けは得意である。
- 耳からの情報を整理は苦手である。

視覚情報の提示

特性に合った情報の提示をする事で、理解しやすい視覚情報をいつでも確認できる環境を整備する。

予告支援（時間の構造化）

記憶したことが変化することでの不安、何をすればいいかわからない事でおこる不安が影響して、様々な行動を生み出してしまう。（予期不安）

そのような不安を減らす工夫が、視覚的な予告支援（時間の構造化）である。



時間の構造化

カードを見て行動する

行動の手がかりとなるカードを用意。
行動時の写真やイラストを実際に印刷してまとめたもの。

手がかりを変更

「人」は表情や声のトーン等
人それぞれ、
音の変化のある人の声



「変化のないカード」を
見て動けることを目標に



アセスメントを基にスケジュールボードを作成

スケジュールボードの導入は、視覚的に1日の見通しを立てる事で予期不安の軽減だけでなく、自身が参加したい活動を選択、自発を促すツールとなった。



写真・実物によるスケジュール



| 名前 | |
|---|---------|
|  | きがえ |
|  | せんたく |
|  | くすり |
|  | ごはん |
|  | はみがき |
|  | ぼうさし |
|  | ファスナーしめ |
|  | おんがく |
|  | くすり |
|  | ごはん |
|  | はみがき |
|  | コーヒー |
|  | おふろ |
|  | ふきん |
|  | ファスナーしめ |
|  | ぼうさし |
|  | おんがく |
|  | くすり |
|  | ごはん |
| | はみがき |
| | ふくえらぶ |
| | くすり |
| | ねる |

- イラスト等の抽象的な物や文字・時計の理解ができない方には具体物の写真や実物（実際日常生活で使用する物）で1日の流れを示します。
- 想像することが苦手であるが、経験したことや記憶には残る特性を活かし、実物を使用することで、次の行動や場所に移ることができます。

スケジュールと手順書



手順書 一部拡大



スケジュールボード



手順書

スケジュール
ボードのカード
と同じ物を使用

枠の中は一連の
流れを掲示

「〇〇さんのいち
にちをみる」でス
ケジュールボード
へ戻る

外出用の手順書（予告）



- 外出を行うにあたり、どこで、何をいくつ買うかを自分で決める、整理しやすくする為、外出用ボードを作成して、外出時に持参してもらっている。
- 時間軸に加えて、場面、場所、購入物を組み換えのしやすいカードとして準備し、Aさんに外出の予定を立ててもらっている。

月間ボードの導入



- 月間ボードについて、両親との外出日だけでなく施設でのイベントなども表記し、どの日にこういった事があるのか見通しを立てる。
- 「昨日」「今日」「明日」のカードを日付けの横に貼り付け、今はどのようなかを提示する。

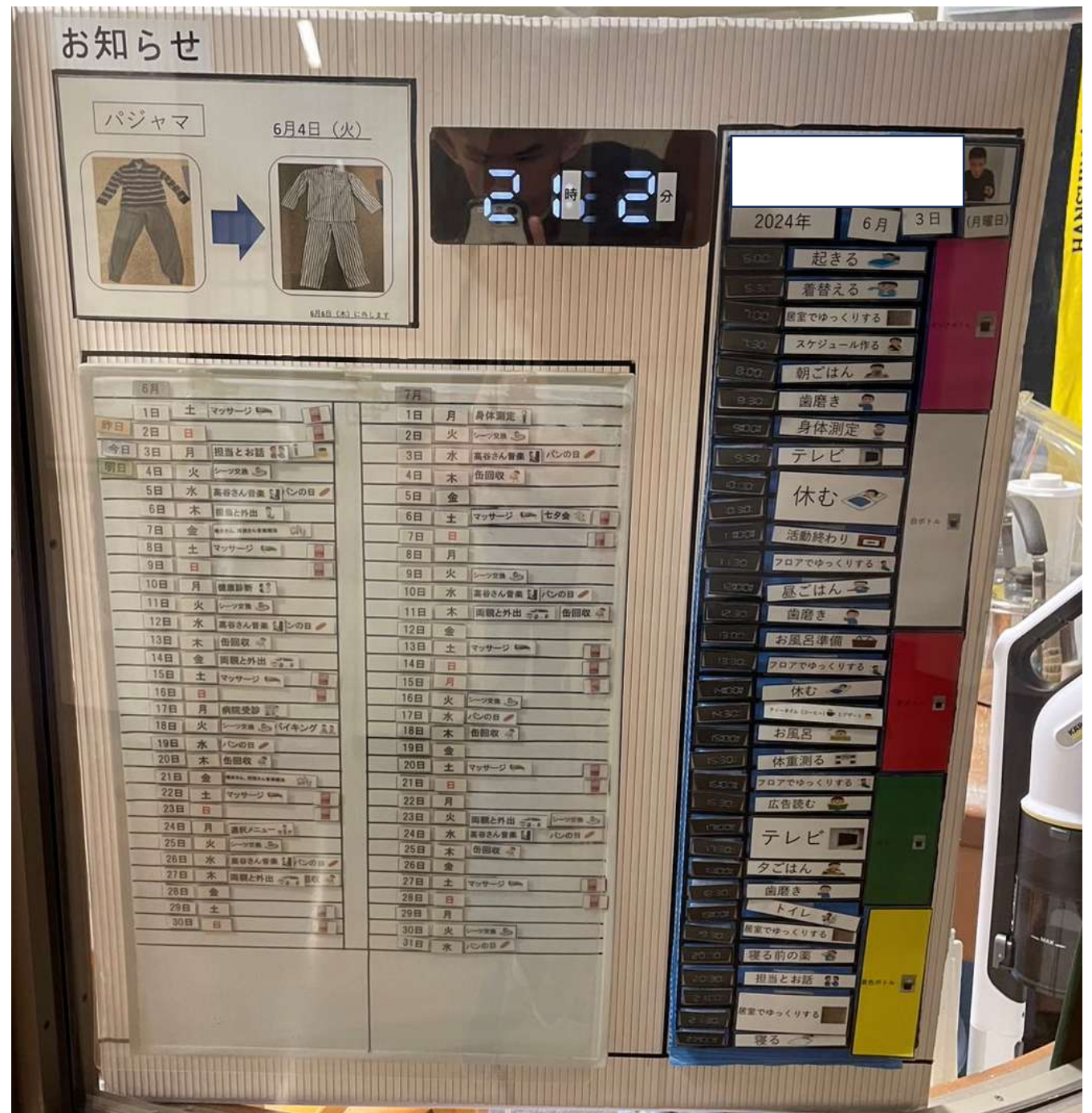
ユニバーサルボード

時間の構造化

一目見ただけで生活の全体
が想像できるようなツール
⇒想像の苦手さを補い、予
期不安を軽減

内容

- スケジュールボード
- 月間ボード
- 時計
- お知らせ（変更時）



全体のスケジュールボードと日中活動ボード

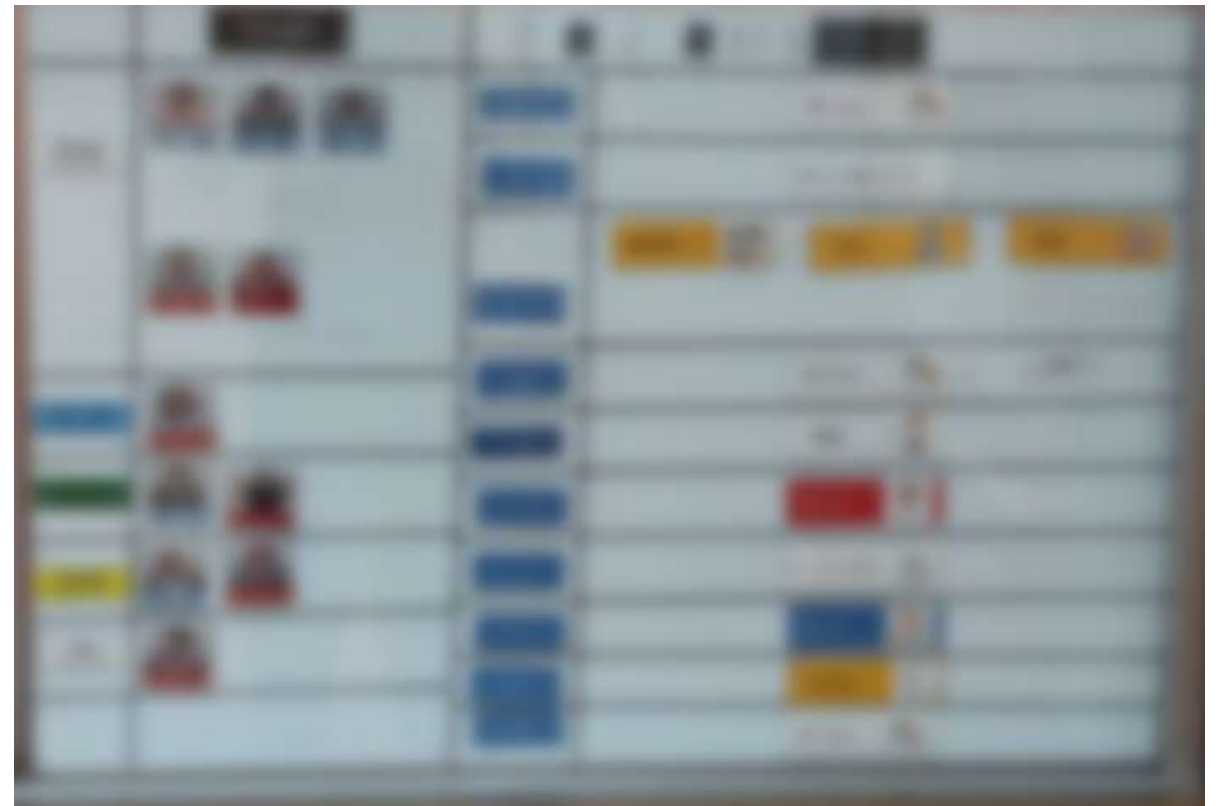


日中活動ボード

- ・作業や活動を自己選択

スケジュールボードと勤務者

- ・勤務者、1日の事業所の流れやイベントを掲示



空間の構造化

空間の構造化の一部を紹介

空間と行動が1対1になるようにして、動線を考える

食事の場所



歯磨きの場所



作業の場所



コーヒーの場所



統一したチームでの支援

職員の誰が見ても理解でき、統一した支援ができるよう「構造化計画シート」を作成し、情報が共有できるようにした。

※ うがいの怪 医師室へ行く
歯磨きのマウスシステムを導入
ステーションへ戻した時に
ディスプレイがある（にじみ）の
ディスプレイをしない（にじみ）



構造化計画シート

食事場面の構造化

人数の少ない場所で音の刺激を減らし、ゆっくりと食事が行えるよう配慮。

他者の食事が見えないようにしたり、職員が前を通らないよう、職員の動線も決める。

食事時の見取り図の内容

- 食事の場所
- 机の上の配置
- トレイの中の配置
- 服薬時の対応
- 下膳の仕方

2020 K. Haruchi

| 日付 / / | 氏名 〇〇 子さん | 場面 食事 | |
|---------|--------------------------|--|----|
| 支援 | 計画 | 解説 | 備考 |
| 物理的構造化 | 生活エリアをどう設定しますか | 下に見取り図を描きましょう | |
| | エリア間の境界には何を使いますか | 嚥下確認のため、使用していない | |
| | 空間の構造化以外で、視覚的刺激をどう軽減しますか | 入れ替わりで職員が出入りしたり、本人の前を通ると「あのひと挨拶したい」など気になり、食事の手が止まってしまうため、職員の出入り、通路など配慮する | |
| 時間の構造化 | どんな視覚情報使って活動を予告しますか | 現物写真と担当者の顔写真のカードを貼って予告している | |
| スケジュール | 幾つの活動を予告しますか | 1つ（朝昼晩の各1つずつ） | |
| | スケジュールの形態 | 縦長 | |
| | 活動が終わったらどうしますか | カードを終わりボックスに入れてもらう | |
| | どこに設置しますか | 医務室 | |
| ワークシステム | 移動した先で何を幾つするかをどう予告しますか | 「食事の席」から「一日を見る」まで7つの現物写真カードを貼り付け予告している（昼食は薬がないため6つのカードである） | |
| | スケジュールへ戻る方法 | 最後は「〇〇の一日を見る」のカードでスケジュールへ戻るようにしている | |

(食事)見取り図

(配置)

※ ティッシュは3枚ずつたたまず、トレイの端にはさむ(紙ははかないに)。

(服薬時)

※ トレイの外に黄コップ1つ置くので、そのコップに白湯を入れる。

※ 金錠剤は本メの右手の平にのせる。

(下膳時)

※ 出入りする職員は本メの前を通らない

※ ティッシュを「食べこぼし」を拭き取る

※ 拭き取ってから「ごちそうさま」を言い移動する

※ 移動は自身で長机を押し移動する

※ 薬は担当者が行う

表出の支援に向けて

表出の支援

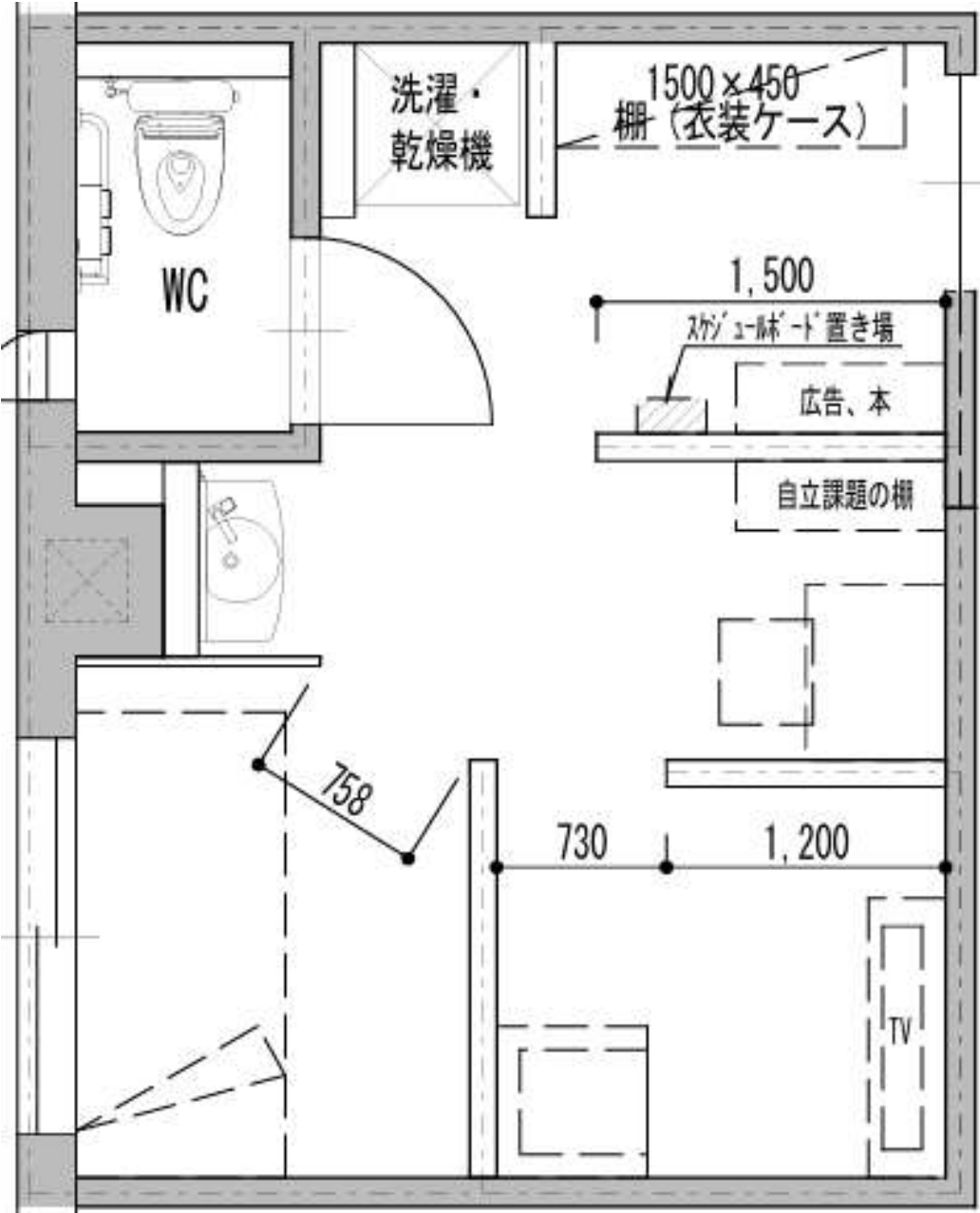
絵カードを用いた代替／拡大コミュニケーションの手法

- ・ 音声言語だけではなく、言葉が目に見えて視覚的に相手に渡すことで伝わることを理解できる。
- ・ コミュニケーションを受け取る側が、誰でも理解できるような標準的な支援。
- ・ 自閉症の方で言葉のある人もコミュニケーションの特性で、音声言語で上手く気持ちを伝えることが出来なかったり、想いとは違うことを言ってしまうこともあります。



まとめ

今後について（増改築計画）



| 居室内の区分け | 寝る場所/余暇（ソファ・TV）/ワーク |
|-------------------------|-----------------------|
| 間仕切り （パーティション・壁 建具） | ○ パーティション |
| 居室内WC | ○ |
| 洗面器 | ○ |
| 洗濯機置場 | ○ |
| 収納 | 造り付け収納：なし 備品：衣装ケース |
| 収納物 | 衣類 |
| ワークスペース （収納棚の有無） | ○ 収納：自立訓練用の棚 |
| TV （BOX・露出） | ○ |
| スケジュールボード （場所は図示による） | ○ |

今後について（広域的支援人材と中核的人材）

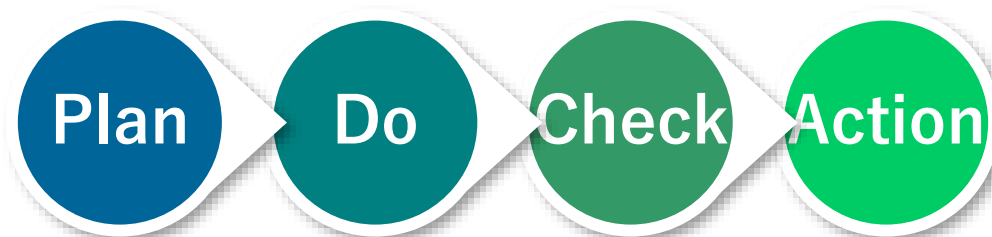
- 高い専門性を有する広域的支援人材が他事業所へのコンサルテーションによる指導・助言等を行い、地域の事業所の支援力の向上を目指す（強度行動障害SV養成事業の目標）
- 事業所においては、チーム支援の要となり、適切な支援の実施をマネジメントする中核的人材を育成・教育していく。

強度行動障害を示す利用者を支援している事業所を地域（拠点）ごとに支援するシステムを運営する実務機関

- ・ 地域での強度行動障害支援の課題の検討やノウハウの交換
- ・ 専門研修の実施や行政との調整

最後に

「利用者主体、利用者の為に」と考えていた支援も本人が理解した特性に合った物でなければ、不本意な物となってしまいます。利用者を知る事こそが本人主体の支援の一步であり、そこから利用者が必要とする構造化や配慮などを考えるきっかけとなります。私たちは専門職として、自閉症の特性をしっかりと理解した上で支援技術を高め、構造化やチームでの統一した支援を提供し、毎月の事例検討会（PDCAサイクル）で特性に配慮した支援を行い、豊かな生活に向けて支援する必要があります。



**ご清聴いただき
ありがとうございました**